

研究機関：広島大学

研究課題名	肺外臓器手術後の間質性肺炎急性増悪発症に対するリスク因子の検討
研究責任者名	広島大学病院呼吸器内科 教授 服部 登
研究期間	2018年3月28日(倫理委員会承認後)～ 2019年3月
対象者	<p>2014年9月から2017年12月の間に、広島大学病院で治療を受けた成人患者さんの内、以下の基準を満たす患者さんを対象とします。</p> <ol style="list-style-type: none">1. CT検査で両側肺野にスリガラス影、網状影、蜂巣肺のいずれかの所見をみとめ、間質性肺炎と診断された患者さん2. 2014年9月から2017年12月までに全身麻酔下に肺以外の臓器の手術を受けた患者さん
意義・目的	<p>間質性肺炎を合併している人に全身麻酔をかけて肺の手術を行った場合、約9%の頻度で手術後に間質性肺炎の急性増悪を来すことが明らかになっています。ですが、間質性肺炎を合併している人の腹部臓器や脳、手足等の肺以外の臓器を全身麻酔下で手術した場合、どれ程の頻度で間質性肺炎の急性増悪を起こすのかはまだ明らかにされていません。また、どのような人がこの急性増悪を発症しやすいのかも分かっていません。</p> <p>今回、全身麻酔下で肺以外の臓器を手術された患者さんの間質性肺炎の急性増悪の発症率と発症のリスク因子を明らかにするため、この研究を計画しました。</p>
方法	<p>本研究は、診療録(カルテ)から得られた臨床データを利用して研究を行います。まず当院で手術をした間質性肺炎患者さんを抽出し、手術後の間質性肺炎急性増悪の頻度を検討します。続いて、間質性肺炎の急性増悪の発症に関わる因子を明らかにするため、間質性肺炎の急性増悪を発症した患者さんと発症しなかった患者さんの間で、年齢や性別、手術前のステロイド/抗線維化薬の投与の有無、KL-6値、CRP値、肺機能、麻酔時間、手術時間、術中出血量に差がないかを検討します(個人を特定可能な情報は解析に用いません)。</p>
共同研究機関	ありません。
試料・情報の管理責任者	広島大学 教授 服部登
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	<p>〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel: 082-257-5196 広島大学病院呼吸器内科 助教 益田 武</p>